

101-341

問題文

8歳男児。ぜん息でかかりつけ医に以下の処方を出してもらっている。

(処方1)

スプラタストトシル酸塩シロップ用5% 1回1.5g (1日3g)
1日2回 朝食食後 30日分

(処方2)

ツロブテロールテープ1mg 1回1枚
1日1回 就寝前 胸部に貼付 30日分 (全30枚)

(処方3)

フルチカゾンプロピオン酸エステルドライパウダーインヘラー 50 µg 60吸入
1本
1回1吸入 1日2回 朝夕吸入

しかし、発作が頻発し症状が重篤化したため救急車で病院に搬送された。かかりつけ医が処方した薬のアドヒアランスを確認したところ、しっかり服用できていた。

発作時の薬物療法として、適切でないのはどれか。1つ選べ。

1. アミノフィリンの点滴
2. ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウムの点滴
3. クロモグリク酸ナトリウムの吸入
4. プロカテロール塩酸塩水和物の吸入
5. サルブタモール硫酸塩の吸入

解答

3

解説

喘息の発作時は、β 刺激薬、ステロイド、テオフィリンなどが用いられます。選択肢 1,2,4,5 は適切であると考えられます。

選択肢 3 の

クロモグリク酸ナトリウム（インターール）は、ケミカルメディエーター遊離抑制薬であり、既に起こっている喘息発作に対しては効果のない薬剤です。そのため、発作時の薬物療法としては不適切です。

以上より、正解は 3 です。